

新アラビヤ夜話
序

佐藤緑葉



ステイーヴンスンは近代の英文學者中で最もよく吾が國に紹介された者の一人であるから、恐らく茲に其傳記などを詳説する必要はあるまい。「寶島」は大抵の人が少年時代に一度は胸を轟かせる海賊奇談で、「ジークル博士とハイド氏」は映畫でお馴染になつてゐる者も少くないと思ふ。専門學校程度以上の學校の學生々活を經驗した者なら、誰でも彼の短篇小説の一つ二つには原文で接觸してゐよう。それ程に彼の作品が吾が國に於て普遍性を持つてゐるのは、一つは彼の作品が奇怪にして變化に富んでゐるせいもあるが、今一つは彼の文章が高雅にして流麗であるためである。

ステイーヴンスンは文章を學んで凡そ七年間文體に苦心したといふ事である。それにもかゝらず、彼の初期の作品は世人

に其旨味を理解されなかつたといふ事であるから、文章の道の困難なるは、吾も彼も變らないものと見える。私は近代の英文學者中にあつては結局ステイーヴンスンとギツシングが最も特色のある作家だと思つてゐるが、しかも亦この二人程兩極端をあらはしてゐる作家も無いものだと思つてゐる。前者は純粹のロマンチリストで、後者はどこまでもリアリストであり、そして其實際生活がそれ〴〵其作風を裏づけてゐる事を思ふと、結局文學も亦其作者の生活を離れて存在し得ない事が明かである。

ステイーヴンスンは一八五〇年蘇格蘭のエディンバラに生れ、同九四年に南太平洋中の孤島サモアで死んだから、其生涯は僅かに四十四年に過ぎない。此點に於ても略ギツシングの一生と同じであつて、兩者とも歐洲人としては等しく短い生涯であるが、しかし二人ともよく不朽の作品を残してゐる點に於ても似

たところがある。私はステイヴンソンの作品の中では「粉屋のウイル」といふ短篇が最も好きで、此作品は今日までに幾度も讀返す事を忘れなかつたが、長篇小説「バラントレーの若主人」や「プリンス・オットー」などからも忘れ難い印象を受けた事を覚えてゐる。

「新アラビヤ夜話」は前後七篇から成る短篇の連続であつて、話の筋は大體個々獨立してゐるが、其中を貫いて出てくるボヘミヤ王子によつて各篇が結びつけられ、そこに「千一夜物語」に似せた形の面白味を見せたものである。こゝに選んだ三篇は其中の特に興味深いものゝみであつて、現代人に訴へる「新アラビヤ夜話」の面白味はこの三篇に盡きると言つて差支へなからう。サイラスの死體運搬の話も奇怪ではあるが、後の二篇の寶石の誘惑力が如何なるものであるかを思ふ時、歐米人の性質を

解する鍵がこゝにもひそんでゐるのを知る事が出来ると思ふ。

終りに本書の世に出るに至つたのは全く野上豊一郎氏の賜物である。又吾が國のステイヴンソン研究家のうちで、野尻抱影氏が特に秀れたる研究家である事を知り得たのは譯者の喜びである。本書を譯するに當つても、譯者は同氏から多くの示唆を受けたことを記して一言感謝の意を表する次第である。

譯者

新アラビヤ夜話 序

底本：「新アラビヤ夜話」岩波文庫、岩波書店
1934（昭和 9）年 6 月 30 日第 1 刷発行
2009（平成 21）年 2 月 19 日第 11 刷発行

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2010 年 12 月 2 日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫
(<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作
にあたったのは、ボランティアの皆さんです。